



NHK朝の連続テレビ小説で『ゲゲゲの女房』が放映される。漫画家・水木しげるさんの夫人である武良布枝さんが書いた原作のドラマ化だ。「赤貧洗うがごとくだったが、不幸ではなかった」夫婦の物語。妻はいたってふつうだが、夫は超のつく変わり者だった。多くの人を魅了するワン・アンド・オンリーの漫画家、水木しげるとは何者か？ このたび復刊された、『妖怪と歩く ドキュメント・水木しげる』（新潮文庫）の著者である足立倫行さんに聞いた。

同郷の先輩、水木しげるさんは、気になっていた漫画家です。大学生が漫画を読み始めた一九七〇年ころといえば、『ガロ』で、つげ義春の新たな劇画調漫画などが脚光を浴びていました。『ガロ』は当時多くの若者が読んでいましたね。

私は七〇年に海外放浪に出たんですが、そのとき靴の中に突っ込んだのが、詩集のアンソロジー三冊、スペイン語辞典と国語辞典、そして『ガロ』のつげ義春特集号でした。その中に水木さんの記事も載っていましたね。